HPVワクチンこれ一枚！

子宮頸がん予防ワクチンで女性の未来を守ろう！

子宮と子宮頸がんについて

図：正面から見た子宮

図：妊娠イメージ

- 子宮は骨盤内にある、妊娠のための臓器です。
- 子宮頸がんは子宮の入り口（＝子宮頸部）に発生する悪性腫瘍です。
- 20歳代から発症者が増え始め、30 - 40歳代で罹患率が一番高くなります。
- 子宮頸がんを疑う症状には不正出血、性交後の出血などがありますが、初期はほとんどが無症状で、発見が遅くなることもあります。

子宮頸がんの原因はHPV

9価ワクチンで子宮頸がんを 80〜90% 防ぎます

- 子宮頸がんの原因のほとんどはヒトパピローマウイルスです
- 主に性行為で感染し女性の多くが一生に一度は感染します
- HPVは200種類以上の型があり、16型/18型など15種類の型がが発症と関係が深いと言われています。
- HPVワクチンを接種で、感染を予防し子宮頸がん発症を予防できます

ワクチンと検診で子宮を守ろう

- 一部の人はHPV感染が持続し数年かけてがんに進行します
- 検診で早期発見できれば、子宮の部分切除（＝子宮頸部円錐切除術）で治療が可能です
- しかし円錐切除術後の妊娠では早産リスクが上がってしまいます
- がんが進行した状態で初めて性器出血などの症状がることがあります
- 進行がんは子宮摘出が必要になることもあり、その後の妊娠は望めなくなります

HPVワクチン接種について

公費助成で無料で受けれる対象

定期接種
小6〜高1

キャッチアップ接種
高2〜27歳

HPVワクチン接種のスケジュール

9価ワクチンを15歳以上で受ける場合

- HPVワクチンは一定の間隔をあけて合計2〜3回接種します。
- 全て接種するのに6か月間かかります。

キャッチアップ接種は期間限定

キャッチアップ接種とは

- ワクチンの接種機会を逃した女性が対象
- **1997年4月2日〜2008年4月1日生まれ**の方
- 2025年3月まで接種を終える必要があります
- それまで公費（＝無料）でワクチン接種可能です

重要

対象期間が過ぎて接種する場合は
最大で10万円が自己負担になります
2024年9月30日までに初回接種をしよう

ワクチン接種後も安心の医療体制

まずは接種した医療機関に相談してください

- HPVワクチンに限らずワクチン全般に，接種後に広い範囲に広がる痛みや、手足の動かしにくさなどの「多様な症状」が起きることが報告されています
- 気になる症状があれば、**ワクチンとの因果関係がはっきりしない場合でも**法律に基づいてサポートする体制がしっかりあります

ワクチン接種を考えている方

問診票

母子健康手帳　　図：持参するもの例

- ワクチン問診票と母子手帳を用意してください
- 紛失した場合は市役所や町役場に相談してください

詳しいことはこのサイトをチェック ▶

作成：福井県産婦人科医師連合

医学教育事業：「福井県HPVワクチン普及推進会議」
本教育プログラムはMSD株式会社（公募型）医学教育事業助成の資金提供を受けて実施しています